

せっかち石東のメモです。 みなさんに、加筆、修正をお願いしたいです！

東日本大震災の被災地からの 『(仮称) 一時移住被災者への暮らしサポート隊』 の具体的な活動開始のためのメモ 2011.03.21. 石東直子

急遽、遠く離れた地に、避難しようと思われお越しになる方々は、ご不便、ご不安も大きいです。

「一時移住して来て、本当に良かった」と、思ってもらえるようなサポートを、行政と協働して進めていきたいと思っています。

そして、全国の自治体のお手本になるような、「快適・癒しの受け入れ地」にしたいです。

初期は、全面サポートをしながら、入居の方々が自治活動を展開される芽を育むようなサポートにしたいと思っています。

☆ 移住地に早く馴染んで、安心・快適な日々を過ごしてもらうために、どんなサポートが必要か？

1. 引っ越されてすぐのサポート／移住地での不安（戸惑い）、生活上の不自由を和らげるためのサポート
2. ちょっとしてから、「閉じこもり」「孤独感」から救い、コミュニティを育んでもらうためのサポート
<「孤独死」されては、受け入れ地の恥ですよ>

→ 小森さんご提案の「大型生活必需品等」の提供事業については、ここでは記述していません。

☆☆ 具体的なサポート活動

訪問サポート隊を立ち上げましょう！

1. 引っ越されてすぐのサポート

- ① まずは、戸別訪問して、入居者とコミュニケーションを築く

準備するもの／
・入居住宅全戸のプロット図 → **要行政提供**
・サポート隊の身分証明書
・サポート隊の研修とヒヤリングシート
・サポ下隊事務局

他組織との分担

サポート隊の受け持ち分担

- ② 居住者同士の連携を育み、自治活動の展開をサポート

例えば、
・お茶会の開催 ・傾聴ボランティア ・健康チェック
・地元地域の散策やピクニック ・囲碁、折り紙、関西料理実演なども

☆☆ 行政への要望です！ ☆☆

例えば、神戸市の場合、大団地の住宅をまとめた戸数で被災者受け入れ住戸として提供する計画が進められているようですので、その

1住戸を 入居者の共同リビング+支援者事務局 として、設置してもらう。

☆ 住宅の提供は、戸別、個別に、離れた住戸を提供するのではなく、できるだけまとまった戸数、あるいは近くの住戸を提供してほしい。そして、50戸単位ぐらいに、ふれあいセンターのような共同の居間を設置してほしい。

「孤独死」されては、受け入れ地の恥です！

☆ 集団で入居されるようなら、「お迎え・案内隊」も作りましょう。

☆ 戸別訪問時には、何か簡単なグッズ（例えば、???、飴玉一袋、付近の地図）を持参するのもいいですね。

黒田裕子さん：
よろしくお願いたします。

辻さん：
しゃれたデザインのサポート隊・身分証明書作ってネ！

次回の3月29日の集会には、
できればサポート隊を立ち上げたいです。手をあげてください！
若い人の出番ですよ！